日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043（222）7207番
97.7.14 No. 4624

7/13労働者集会

動労千葉・国労闘争団等500名結集（労働スクエア・東京）

七月一三日、一二時三〇分より、東京・八丁堀の労働スクエアー東京において、「正念場の国鉄闘争勝利をめざす七・一三労働者集会」が開催され、動労千葉組合員を先頭に国労闘争団や職場で奮闘する国労組合員、動労総連合の仲間、国鉄闘争を支援する労働者・市民・学生など五〇〇名が結集し、公労法解雇二八名全員の解雇撤回をかちとった地平を確認するとともに、国労本部の「八・三〇申し入れ」路線による国鉄闘争の切り捨てを許さず、ガイドライン粉砕、労働法規改悪阻止、大失業と戦争の時代と対決する労働運動の新しい潮流をつくりあげるために九七年後半を全力で闘いぬくことが確認されるなど、国鉄闘争の新たな闘いへの基点をなす集会となった。

労働運動の弾圧と軍国主義の台頭はセットだ
—連帯あいさつ　中島誠氏—

集会は、布施副委員長の開会のあいさつではじまり、まず、連帯のあいさつのはじめに中島誠氏（文芸評論家）より「ガイドラインとは英語でウォー　プログラム、つまり戦争のためのプログラムだと明記している。従来はセキュリチュイー　プログラム＝安全保障のプログラムと書いてあった。そして、こういうことが決まるときに起きるのが労働運動に対する抑圧・弾圧・懐柔だ。同じ志し認識を持っている労働者・組合と手を組んで新しい労働運動をやるときに立ち至っている。労働運動に対する弾圧と軍国主義の台頭は、常に歴史の中でセットになって浮かび上がってくることを認識しなければならない」と訴え、本音で政府や資本と闘いぬく動労千葉や国労の仲間に熱い激励をこめたあいさつが行なわれた。

続いて、組織的犯罪対策法とたたかう共同行動の代表と動労千葉顧問弁護団長の葉山岳夫しよりあいさつが行なわれ、盗聴を合法化し、労働運動解体を狙った組対法などの治安立法の制定を許さないために、ともに闘うことが明らかにされた。

田中書記長が闘いの方向性を明快に提起

国鉄闘争支援葛飾地区連絡協議会からのメッセージが紹介された後、集会の基調報告が田中書記長より行なわれ、①大失業と戦争の時代—新ガイドラインと橋本六大改革、②正念場を迎えた国鉄闘争—国鉄改革の破綻と国鉄の闘争の根絶を狙う新たな攻撃、③一〇四七名の解雇撤回闘争の地平と「八・三〇申し入れ」路線、④ＪＲ総連革マル＝ファシスト労働運動との組織攻防戦に起ち上ろう、⑤２８名の公労法解雇全面撤回—切り開かれた闘いの地平、⑥闘いの課題が提起され、全ての労働者の怒りを結集して新たな「労闘」をつくりあげるために熱い夏を全力で闘いぬくことが確認された。

闘争団から血を吐く決意が発せられる

つづいて、国労新橋の仲間から、「今年八月の国労大会に向け、昨年八月三〇日に国労本部がＪＲ各社に出した『八・三〇申し入れ』に基づく労使共同宣言路線を許すのか、それとも八六年秋の修善寺大会の時のように労使共同宣言を拒否するのかという歴史的な分岐点に立っている。今国労全国大会方針からこの内容を削除させなければならない」と熱烈に述べ、会場からの万雷の拍手が沸き起った。

そして、国労の仲間からの発言をうけて国鉄闘争の最先頭で闘いぬく三地区の国労闘争団の仲間四名が登壇し「『八・三〇申し入れ』路線とは、一〇四七名全員がもし原職復帰したとしても許すことはできない。しかも、橋本の戦争体制に駆り立てる路線だ。われわれ闘争団の死活を賭けた闘いが問われている。侵略戦争体制を真っ向から粉砕する労働運動を構築するために闘争団は全力で闘う」という血を吐くような決意が次々と行なわれ、会場からは割れんばかりの拍手と歓声が応えた。

国労闘争団へのカンパの要請が行なわれた後、決意表明にうつり、国労の各地区代表四名と動労総連合から動労水戸・国分書記長、動労西日本・小川書記長から各地の状況と国鉄闘争勝利への闘う決意が次々に語られた。

第二の「労闘」めざし闘いぬこう
—中野委員長まとめ—

発言の最後に、中野委員長から閉会のあいさつとまとめが行なわれ、「今年から来年にかけて国鉄闘争の勝負を決める決戦状況に突入した。ひとつは、八九年に連合結成し労働運動が産業報国会化する中で、国鉄労働運動が日本労働運動の二一世紀を決めていく問題になっている。もうひとつは、今日の情勢だ。昨年四・一七の日米共同宣言は、日本の政府が戦争をやることを決意したということであり、行革・規制緩和攻撃もそういう攻撃の一貫だ。こうした情勢の中で国鉄労働運動の位置が決まる。今、一番の問題は、闘う側の路線の問題だ。国労の『八・三〇申し入れ』は、国労の死を意味する申し入れだ。これが方針になるのかどうかが、今直面している極めて重大な問題だ。しかし、これをめぐってディスカッションしながら方針を練りあげて勝ちぬき、闘う方針のもと労働者を団結させ着実に運動を進めていく方向に持っていかなければならない。そして国鉄闘争を軸にしてガイドライン闘争—第三次安保・沖縄闘争などの闘いを実現していく中から日本の労働者の展望が開かれるということだ。当面、第二の「労闘」をめざして七・三一労働法規改悪反対集会、九・二三組対法反対集会に結集しよう。ガイドライン反対の一〇〇万人署名を成功させよう」と訴えた。

集会の最後に、後藤執行委員の音頭でインターナショナル合唱、関青年部長の音頭で団結ガンバロー三唱を行い、集会は大成功のうちに終了した。